



書
評

耳鼻咽喉・頭頸部手術アトラス [上巻] 第2版

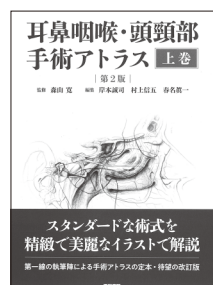
監修：森山 寛

編：岸本誠司，村上信五，春名眞一

A4・頁 432 2018 年 05 月 定価：本体 37,000 円＋税

[ISBN978-4-260-02105-0] 医学書院刊

＜書評者＞ 夜陣紘治（三原赤十字病院・耳鼻咽喉科/広島大名誉教授）



『耳鼻咽喉・頭頸部手術アトラス』の上巻（耳科，鼻科と関連領域）の第2版が，上梓された。本書の初版は1999年に刊行され，今でも多くの耳鼻咽喉科・頭頸部外科医にとって欠かせない手術書として読まれている。しかし，日進月歩の手術法，手術支援機器などの目覚ましい進歩に伴い，改訂された手術書が待ち望まれていたところである。このたび，監修者の森山寛先生，編集者の岸本誠司先生，村上信五先生，春名眞一先生の手により，19年をかけてようやく改訂版が刊行された。世紀をまたにかけた待望の手術書である。

初刊の序で小松崎篤先生は，手術解剖や手術の実際を理解しやすく模式図化し，術前の準備の重要性や手術のポイントを強調すること，インフォームドコンセントに配慮し，新しい分野をできるだけ取り上げることが基本方針として監修したと述べられているが，第2版では，この点を踏襲しつつ，一層充実した手術書となっている。

まず目につくのは2色刷となっていることであり，模式図を眺めているだけで手術の実際をより鮮明にイメージできるようになっている。また，模式図が一人のイラストレーターの手により描かれているので，筆致が統一され，目に優しく，より立体的となり，手術の流れがスムーズに理解できるのも特徴である。

執筆者は，各項目の内容に精通されている第一人者の方々ばかりであり，蓄積されたノウハウ，初心者に知ってもらいたいこと，陥りやすい点などが，本文のみならずインフォームドコンセント，手術のポイント，手術のピットフォールとして余すところなく披歴されている。

内容的には，手術のための画像診断が豊富に取り上げられているし，チタン製人工耳小骨，パワーパンチ，ハイドロデブリッダー，バルーンカテーテル，各種凝固装置など新しい支援機器などを用いての手術法や，耳管開放症に対する手術，埋め込み型骨導補聴器（BAHA）挿入術など新しい手術法もわかりやすく解説されている。鼻科学ではいずれの項目においても，内視鏡下手術法が丁寧に紹介されているのも，改訂になった手術書の特徴付けている。

本書第2版の本文の総ページ数は411ページと，初版の394ページをわずかに超える程度に抑えられているが，いかに充実した内容を過不足なく，簡潔に解説するかに意を注がれているかが，おわかりいただけると思う。

初学者にはもちろんであるが，現役で多くの手術を手掛けている先生方の座右の手術書としても役立つのは間違いないものと確信している。